

系統 エポキシ変性ウレタン樹脂



塗装条件

塗装方法	はけ、ローラー、エアレス
希釈率	塗料用シンナー (はけ・ローラー 0~10%、エアレス 10~20%)
標準塗布量 (kg/m²/回)	0.08~0.18 kg/m²/回 (はけ・ローラー 0.8~0.16、エアレス 0.8~0.18)

注)上記の数値は塗装作業に必要な使用量の標準数値です。

標準塗布量は、個々の条件によって異なります。

塗装間隔

項目	温度	
	最短	23°C
標準塗布間隔	最長	16時間
	最長	7日間

可使時間: 気温5~15°C 4h、15~25°C 3h、25~35°C 2h

塗料性状

項目	内容
1 荷姿	16kgセット(主剤15:硬化剤1)
2 混合比	2液 (15:1)
3 色	白色
4 つや	—
5 臭い	溶剤臭
6 仕上がり感	平滑
7 比重 / 密度	1.2~1.5 (g/cm³/23°C)
8 溶剤比重	—
9 加熱残分	61~73 (%)
10 粘度	1350±650 (mPa·s/23°C)
11 効物表示	—
12 労安法上の表示有害物	エタノール、エチルベンゼン、キシレン、酸化チタン、高沸点芳香族ナフサ、低沸点芳香族ナフサ、トリメチルベンゼン(混合物)、ミネラルスピリット
13 使用有機溶剤種別	第三種
14 消防法による危険物区分	指定可燃物 可燃性液体類
15 硬化剤の成分による区分	第四類第四石油類

注)上記の数値は標準を示すもので、若干の変動があります。

特徴

- ①リフティング防止・塩ビ被覆鋼板用 白色プライマーです。
- ②エポキシ変性ウレタン樹脂系の密着力が高く耐水性に優れたプライマーです。
- ③防錆性がありますので、セメント系素地・金属系素地の両方にご使用いただけます。
- ④強溶剤塗料を上塗りする際のちぢみ現象を抑制します。
- ⑤塩ビ被覆鋼板屋根塗装時の、可塑剤の移行を抑制します。
- ⑥シーリング部の可塑剤移行を抑制します。

主な適用素材

コンクリート・モルタル・スレート・サイディングボード・押出成形板・鉄骨・鋼板・亜鉛鉄板・ステンレス板・アルミニウム板・ガルバリウム鋼板など

適用旧塗膜

アクリル樹脂塗料、アクリルアルキド樹脂塗料、ポリウレタン樹脂塗料、塩化ビニル樹脂塗料、塩化ゴム樹脂塗料、合成樹脂調合ペイント、複層・薄漬け・厚漬け仕上げ塗材、紡錘形複層仕上・外装薄塗材 など

注)どぶ漬け溶融亜鉛メッキ鋼材には適用できません。

使用上の注意事項

- 1)シーリング材への塗装は、塗膜の硬化不良・割れ・剥がれ・汚染の恐れがある為、原則不可です。
- 2)主剤・硬化剤は正確に混合し、均一に攪拌してください。上記の標準塗付量(または所要量・使用量)には、希釈剤は含みません。
- 3)低温時(5°C以下)、多湿時(85%以上)及び結露が懸念されるような場合は、塗装を避けてください。
- 4)強風時や降雨、降雪のおそれがある場合は、塗装を避けてください。また、可使時間にご注意ください。
- 5)日光から遮断し容器は密封の上、換気の良いところで保管下さい。
- 6)事前に既存塗膜の溶解やリフティングが発生しないことを確認してください。
- 7)塗布量が少ない場合、ちぢみ防止効果、可塑剤移行防止効果、防錆性が低下しますので、標準塗布量を必ず塗装してください。
またエッジ部などは増し塗してください。
- 8)引火性液体ですので、火気のある所では使用しないでください。取扱作業所には局所換気装置を設け、皮膚に触れないようにしてください。
- 9)素地の乾燥状態に十分注意し、使用後の塗装器具はできるだけ早く塗料用シンナーで洗浄してください。
- 10)作業を行う場合には、適切な保護マスク、保護手袋、保護眼鏡、保護衣を着用下さい。
- 11)その他塗料の取扱いについての一般的な注意事項の詳細についてはSDS(安全データシート)を参照して下さい。

※本製品説明書の内容には、予告なくして変更することがありますので、予めご了承ください。